

일한 시민 네트워크・나고야

Home Page : <http://www.nikkannet.jp/>

発行者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

1. 事務局通信	統括幹事：後藤和晃
2. ニュース	事務局
3. 会の活動報告とお知らせ	事務局
4. 光州学生訪問団関連の感想文	参加者の皆さん
5. 明日香紀行	参加者の皆さん
6. ソウル便り	二日市 壮さん

事務局 統括幹事：後藤和晃

（１）“交流の熱波” 夏から秋へ ～ 光州学生訪問団帰国 ～

アンニョンヒ ケセヨー（さようなら！）、アンニョンヒ ガセヨー（さようなら！）……、8月9日（月）の朝11時、新幹線名古屋駅の下りホームで“さようなら！”の大合唱が沸き上がりました。光州学生訪問団が5日間の訪問日程を終え大阪経由で韓国へ帰っていったのです。

一見、例年と変わらない別れの風景だったのですが、交流の熱波はその後も続き、これまでを上廻る勢いを見せています。

それを証明しているのが日韓市民ネットワーク・なごやのホームページです。訪問団の帰国後、しばらくして光州の学生たちがホームページに設けた投書欄（交流館と称し日本語コーナーと韓国語コーナーがあります）に続々と投書してきたのです。内容はいずれも交流を果たした喜びや感謝、再会への願いなどですが、全て韓国語での投書でした。一方、日本の若者は日本語コーナーに便りを載せ対話を試みています。実に興味溢れる対話の光景ではないでしょうか？それぞれが母国語で便りを書き、相手の便りは辞書を片手に読み下しているわけです。実は韓国語の投書欄は、韓国の若者でも気軽に投書できるように今年の春以降、設けたばかりでした。狙いは、まさしく適中しました。光州の学生たちばかりか、名古屋の留学を終わって韓国に帰国した若者たちもドンドン投書してきています。日韓市民ネットワーク・なごやの行事で出会った若者たちが、交流の絆を一層強めようという様子が見て取れて、嬉しい限りです。

光州の学生たちからは、会のホームページ以外にも日本の学生や若者あてにメールや電話で多彩な情報が届いています。事務局が承知しているだけでも、光州の2人の学生が年内に名古屋を再訪問してきます。若い世代の交流の日常化、定着化の流れは、びっくりするほどのスピードで進んでいるわけです。「過去の歴史を直視しつつ・・・」という初心を忘れなければ、日韓両国の若者たちは、これ以上はない素晴らしい友人を得ることができるでしょう。この夏の交流の余熱を秋へそして冬へと、持ち続けていきたいものです。

（２）交流を支えた皆さんに感謝！

今年の交流の夏も実に多くの皆さんの支えがあって実を結びました。一介の小さな国際交流団体が、外国から交流団を迎えホームステイの他に奈良一泊旅行をプレゼントするのは容易なことではありません。それが実現できたのは、たくさんの協力者や会員から力強い支援を得られた結果でした。

特に光州訪問団の奈良旅行に際しては、法隆寺、興福寺、東大寺という奈良を代表する寺々で、入場や高僧への面会、仏像見学、解説等々、多岐にわたる協力を得られたことを報告しなければなりません。法隆寺では管長の太田玄妙師自ら、法隆寺と古代朝鮮仏教の深い係わりについて諄々と話をいただきました。さらに太田管長は「法隆寺は、今も昔からの縁を大切にしようと、慶州にある佛國寺（石窟庵の石仏で著名）と協定を結び、親しく往き来していますよ」と話されましたが、光州の学生たちは感激の面持ちでうなずいていました。

東大寺では大仏殿の前の主任で現在は庶務執事の筒井寛昭さんが、一行を大仏の膝近くの壇上にまで案内されました。そして大仏の大きさや鑄造法など詳細にわたっての説明のあと「こんな大きな大仏さんですが、どうしても埃（ほこり）がたまるので1年に1回、体を清められるのですよ。もし皆さんが明日の今頃、ここに来ていたら大仏さんの肩から手、膝の上まで白衣のお坊さんが乗っていて埃を払っているはずですよ。大仏さんの顔もかすんで見えている所でしたよ！」とユーモアたっぷりに話されました。

興福寺でも執事の森谷英俊さんの図らいで五重塔を見学したあと国宝館に入場することができました。ここでは奈良の仏像のなかでもとりわけ人気が高い阿修羅像や旧山田寺仏頭などを見ることができ、光州の学生たちも深い印象を受けたようでした。

例年の事ながら世界遺産に指定された奈良の寺々と韓国との縁を大切にされる高僧の人たちに、心から感謝の意を表わしたいと思います。

また奈良旅行の際、一行の宿舎（奈良ユースホステル）を訪問され光州の学生たちに、これからの日韓の交流の大切さを力説していただいた高基秀さんの善意についても報告しておきたいと思います。高基秀さんは（ご存知の方も多いとは思いますが）日韓同時翻訳ソフトを世界で初めて発明、普及させたあと、多言語の同時翻訳ソフトの開発を大阪を本拠地に営々と続けている方です。“在日の星”ともうたわれKBSの海外同胞賞をはじめ、様々な賞や学位を受けています。高さんには以前、会員などに講演をして頂いた縁から会報をお送りしていましたが、会報26号の「光州訪問団に奈良旅行のプレゼントを！」の記事を読んで5万円もの寄付を振り込んでいただいたのです。事務局一同、突然送られてきた多額の寄付金に最初は驚き、次には喜びあって「高さんには、是非奈良へ足を運んでもらい、光州の学生たちにも会ってもらおう！」と決めました。高基秀さんと光州の学生の対話は、こうした経過から生まれました。高さんの善意は韓国の若者にとって在日を理解する最初の手がかりになる動きだったかも知れません。

さて、高基秀さん同様、会員でないのに“交流の夏”に際していつも募金を送っていただいているのが、名古屋で韓国語の講師として活躍中の朴美姫さん、そしてNHK奈良放送局の元局長で東京在住の松本太郎さんです。

以上の3人の方の募金の他、全国各地の会員の皆さんが心をこめて資金を寄せてもらいました。遠くに住んでいるため会の活動に日頃参加できない人たち（高知の横島さん、広島の方井上さん、西宮の小西池さん、上海の野村さん、etc）をはじめ、療養中でやはり顔を出すのが難しい人たち（内藤さん、加藤久雄さん、水崎さんなど）も含め、多くの方々が募金していただきました。その結果、目標をはるかに上回る35万円ものお金が集まり、奈良旅行一泊旅行や交流の夕べを無事やり遂げることができました。事務局一同、支援者の皆さんに対し心から感謝を申し上げます。

※なお、募金の全容は5-6ページに掲載しています。

このページは、新聞や雑誌あるいはホームページなど、当会に関係があるニュースを掲載しています。皆さんが、お気付きになったニュースがあればお知らせください。

○ 韓国語ジャーナルに当会の紹介記事が掲載されました

9月末に発売された韓国語を学ぶ人たち向けの雑誌「韓国語ジャーナル」第10号に、日韓市民ネットワーク・なごやを紹介する記事が掲載されました。簡略な内容ですが、全国的な雑誌で紹介されるのは初めてとあって記念すべき記事といえるでしょう。会員の皆さんも、是非購入し、一読していただくをお願いします。なお記事は53ページに2枚の写真つきで載っています。

<掲載分より一部抜粋>

・・・会員は高校生をはじめ働き盛りの方から、かつて朝鮮半島で暮らしていたお年寄りまで、職

業も様々です。・・・会員それぞれが持っているものや力を出し合って、和気あいあいと活動しています。・・・

○ 駐名古屋大韓民国総領事官に新しい総領事が就任

2004年8月より新しく鄭盛培総領事が就任されました。当会の事務局が9月2日（木）に会食、今後の日韓交流について意見交換を行いました。

◇ 会の活動報告とお知らせ

1. 報告

1) 光州学生訪問団のホームステイ受入れと市民との交流会

これに関しては、本会報の事務局通信並びに別項の報告で記述しておりますのでお読み下さい。

2) 留学生との合同キャンプ

8月14日（土）～16日（日）で犬山市入鹿池奥、八曾キャンプ場にてキャンプを行いました。参加者は留学生11名、日本人8名。

3) サッカー観戦ツアー

8月29日（日）に予定されていた韓国人Jリーガー応援サッカー観戦ツアーですが、当日台風の接近にともない、試合自体は行われましたが、会の行事としては中止することになりました。

4) 懐かしの済州島紀行 ————— リーダー 後藤和晃

古代から、中世そして現代に至るまでの済州島と日本の知られざる係わりを、現地を訪ね、済州大学前総長の趙文富氏や学生たちとも交流してきます。

・期間 12月3日（金）～5日（日）

・参加者 14～15人の予定

2. お知らせ

1) 「ワールド・コラボ・フェスタ 2004」開催と出展

市民レベルの国際交流・国際協力を推進するため、例年では「国際協力ふれあいフェスティバル」を名古屋国際センター主催で行っていましたが、今年は、ちょっと違う趣向で、場所も栄の中心部に移して「ワールド・コラボ・フェスタ 2004」を開催します。

当会は「日韓市民ネットワーク・なごや」の活動を市民の皆さんに知って頂くため、10月31日（日）、栄の久屋大通り公園もちの木広場に会の紹介ブースを出展することになりました。会員の皆様（友人などお誘い頂きまして）ご来場をお願いします。

・日時：10月31日（日） 10:00～17:00

・場所：名古屋市栄、久屋大通り公園・もちの木広場

2) 韓国からの留学生を日本の家庭に：ホームステイウエーブ

名古屋には、韓国人留学生あるいは日本語研修で短期に名古屋に来ている学生／生徒がたくさんいます。

当会では、これらの留学生達と日本の市民や大学生との交流を図っております。

ところで、これらの学生の中には留学中または研修中に日本人の家庭を経験すること無く帰国する学生も少なくありません。それで、当会では、このような学生達をホームステイに招待し、日本の家庭を体験してもらい、あわせて各家庭と学生達との交流を図ることを目的に、昨年に引続き今年度の行事として取り上げました。今年度は10月から11月にかけて「ホームステイウエーブ」を実施します。

このホームステイは、ホストの都合の付く週末や休日等を利用して、宿泊あるいは日帰りなど自由な日程で行い、ホームステイの仕方や内容については、ホストが会の趣旨を踏まえつつ留学生と話合って実行します。

なお、毎年、行事に参加したホスト並びに留学生から、各家庭と学生達との交流を深め、お互いに良い経験と相手の国を理解することができたと好評でした。

この会報を発行する頃には一部のホームステイが開始されている予定ですが、新しくホストを希望する家庭を随時受け付けております。

○問合せ先：宮本昌子 幹事

TEL/FAX 052-834-8590

3) 交流リーダー行事“裏木曾の秋を遊ぶ” —— リーダー：三尾さん／本さん夫婦

韓国人留学生と当会会員との交流行事として、三尾夫妻のリーダーにより“裏木曾の秋を遊ぶ”を昨年に引続き行います。昨年までは日帰りでしたが、今年度は1泊2日で行います。

・日時：11月6日（土）～11月7日（日）

4) 日韓「学生・市民」新春交流会

実施内容を当会事務局及び関係者と検討中ですが、今年も昨年同様の企画で、日本の学生・韓国の留学生・韓国学校生徒を含む実行委員会を設け、共催の形を取ります。

実施内容などが決まりましたら、会員の皆さんに郵便またはメールにてお知らせと募集を行います。多くの会員の皆様の参加を期待しております。

5) 新会員紹介（敬称略）

前回の会報発行以降に入会された方で、今会報の編集完了時点(9/29)分まで受付完了されている方々です。

李 暁京	林 清重
------	------

☆光州学生訪問団 報告事項

光州学生訪問団 参加者及びホームステイのホスト名

氏名	学校など	ホスト名	氏名	学校など	ホスト名
カンヘンオク 姜幸玉	団長	後藤和晃	パクジソン 朴秀珍	朝鮮大・行政社会福祉	宮本昌子 井上咲希
パクサンヒ 朴相熙	引率者	佐藤奈津英	パクジョヨル 朴正烈	トンソン高	鈴木聡一
パクミョンイル 朴明日	引率者	宮崎淳次郎	パクチヒョン 朴智玟	朝鮮大・日本語	木村 光
カンヒョンジョン 姜暁貞	光州女子大・初等特殊教育	新田悦子	ヤンイルファン 梁堯煥	朝鮮大・貿易学	梅田 徹
キムジョフン 金正勲	朝鮮大・化学工学	鈴木聡一	ユンナリ 尹ナリ	朝鮮大・日本語	春日井絵里
ナヒョンギョ 羅炫	朝鮮大・行政福祉	今泉慶太	イジホ 李志憲	光州大・経済	宮崎淳次郎
ムンソミ 文善美	朝鮮大・経済	具 奈香	チョンチン 鄭智銀	朝鮮大・経済	鈴木奈津子
パクソヨン 朴善英	朝鮮看護大・看護	佐藤綾夏	ファンイン 黄仁英	光州女子大・社会福祉	中澤佑香

会計報告

1) 市民交流のタベ

収入	会費	184,500	支出	料理・飲物	160,000	※	寄付金の残高として繰り入れます。
				会場の飾付け	3,000		
				演奏者謝礼	10,000		
	計	184,500	計	173,000		差引残高	11,500

2) 訪問団に対する接遇・支援費用（寄付金より充当）

収入	寄付金合計	342,000	支出	奈良旅行経費	256,595	※	残金は当会の活動資金として繰り入れます。
	交流会残高	11,500					
	計	353,500	計	256,595		差引残高	96,905

3) 光州学生訪問団に関わる行事の寄付金と差入れ（支援者名は敬称略、あいうえお順）

ご寄付者のすべての方に領収書を発行しておりませんので、領収書の代替として記しております。
もし間違いや記入漏れのある場合は事務局までご連絡下さい。

池田 進	3,000	大西さおり	3,000	佐々木英之	5,000	中井康雄	3,000	松永 緑	3,000
石田洋子	5,000	岡村 成二	5,000	鈴木一宇	5,000	中川修介	3,000	水崎弘三	2,000
伊藤みつ子	3,000	岡本裕子	5,000	須田奈保美	5,000	長澤 進	7,000	宮崎淳次郎	10,000
伊藤義郎	10,000	小田章恵	8,000	瀬尾文子	3,000	長田竹子	3,000	安田 守	3,000
井上辰郎	3,000	加藤恵志	7,000	千 浩美	1,000	成瀬一男	10,000	山田あき子	5,000
岩田隆司	3,000	加藤久雄	2,000	高橋三代子	5,000	野村 哲	10,000	横畠英雄	10,000
上村登志子	2,000	加藤 勝	7,000	田口良浩	5,000	林 香	1,000	余語康晴	3,000
鵜飼 満	5,000	神谷信明	5,000	多田敏雄	3,000	原 和夫	2,000	吉川範和	5,000
梅田 徹	4,000	小坂井多恵子	5,000	崔 崇浩	7,000	古橋純子	2,000	会員外 寄付者	
大久保舜司	3,000	後藤和晃	5,000	出口和代	3,000	堀尾和義	2,000	(株) 高電社	50,000
太田 道子	7,000	小西池 実	3,000	土岐良文	10,000	牧野 司	5,000	松本 太郎	5,000
岡崎 洋子	5,000	堺沢一生	3,000	内藤朝夫	20,000	増田一夫	10,000	朴 美姫	5,000
人員数	顧問・会員：56名 会員外：3名							合計金額	342,000

現金の他、食物、飲物、お菓子、お酒などたくさんの寄付がありました。

「光州学生訪問団」——参加者の感想文

◇訪問団側

○日本・・・・・・—— 朴 正烈

僕が中学生の頃から憧れた国だ。日本に行くことができると思うと毎日が夢現の気分でした。とうとうその日がきました。朝の4時にYMCAに向かって出発！母に気をつけて行ってらっしゃいという言葉を書いてバスに乗った。

空港に到着し飛行機を待っている間、胸がドキドキしているのを感じた。飛行機に乗って関西国際空港に到着したときもまだ日本に来たという実感が沸かず韓国のどこかの地方に来たという感じだった。

電車に乗り大阪まで来たからには大阪城を見ないという思いでユースホテルに荷物を置いてから大阪城へ向かった。大阪城！そこはずっと前から聞いていた日本のお城のひとつ。金で飾られているという大阪城の天守閣！！移動しながらでも遠く見える大阪城にぼくは、うわ～と言う言葉がおもわず出た。写真をとるまくった。本当に来たかったところだったので感動しました。途中、日本の公共放送局であるNHKを目で追って大阪城にやってきました。入場記念の判を押してある入場券を団長さんからもらい城内に入った。城内はまるでショールームのようだった。天守閣に上がって城からのパノラマを満喫した。大阪城はかなり古かったのにもかかわらず保存がよくできていた。

次は四天王寺を見に行った。人影も少ない静かなお寺だった。

ユースホテルに戻って自分たちが持ってきた米とおかずでご飯を作って食べた。こうしていると、

まるで韓国で旅行をしているような気分だった。夕方には、難波の商店街をぶらついた。その夜は疲れてすぐ眠れた。

翌日、阪急電車に乗って京都に向かった。京都は昔、日本の首都であり保存された建物が残っていて一番日本的な感じがした。ガイドさんが二人付いてくれた。その内の一人はゆりお姉さんの知っている方で韓国語が上手でした。

バスに乗って金閣寺に向かった。金閣寺は金で作られていて將軍たちの別荘だったと聞いた。もっと近くで見たかったが、立ち入り禁止の看板がありちょっと残念だった。

金閣寺を見た後、バスに乗って平安神宮へ行った。平安時代の宮殿でその雄大さに驚いた。余にも大きくて写真1枚で写しきれない広さでした。近くの食堂でお昼を食べた。カレーうどんというものでとても塩辛い味だった。

ユースホテルに戻る途中、ご飯をこしらえて食べるのが苦痛だった私たちのために団長さんがお寿司をご馳走してくれた。とてもおいしかった。その中でもうなぎ寿司が一番おいしかった。その日は夜遅くまで眠れなかった。

翌日、地下鉄に乗って奈良まで行った。奈良でもガイドの方が迎えに来てくださった。日韓市民ネットワークなごやの方だった。

奈良にある天皇の墓と思われるところと博物館へ行った。そして、金堂壁画や五重塔も見た。その後、タクシーに乗ってあちこち写真を撮った。ビアホールにもいったが韓国とよく似ていた。

翌日、東大寺に行きとても大きい仏像を見た。その後バスに乗って韓国学校へ向かった。そこで時間が余ったのであやかさんと電化製品街へ行ってプレイステーション2を買った。学校へ着いたらすでにホストの方が待っていた。

僕のホストは鈴木先生だった。その夜、カレーライスをご馳走になった。僕たちのためにわざわざ韓国の食堂でキムチを買ってくれた。ありがたい。

翌日、岡崎城へ行った。大きい城ではなかったが徳川と関連があるお城だった。家に戻って休んでいると、今日は花火大会があるからと家族みんなが屋上へ集まった。花火が打ち上げられた。口では言えないほどすばらしい光景でした。つぎの日にポスターを見てわかったがおよそ2万個の花火を打ち上げたそうだ。

次の日の朝は、サンドイッチを食べてから、鈴木先生のお孫さんとみんなでゲームをしながら遊んだ。昼には、五平餅というお米で作った餅を食べた。そして、韓国の食堂に持っていった。そこで北朝鮮の酒を買った。お孫さんは用があって、ぼくたちより先にいったが一緒にいられなくて寂しそうでした。

韓国学校に着いて、夜ご飯をたべてからカラオケへ行って楽しく遊んだ。さすがに疲れたのですぐに眠れました。

翌日、飛行機の中で遠ざかって行く日本を見ながら韓国に向かった。

一週間という時間があっという間に過ぎ去り楽しかったことが次々と思い出された。もっと居たかった。鈴木先生には本当に感謝している。いつかまた日本を訪れる機会があったら必ずもう一度、感謝の気持ちを言いたいと思った。ぼくたちのためにいろいろと配慮してくださった先生の気持ちは今も忘れない。そして、あやかさん、けいたさん、みんな親切にしてくれて本当にありがとう。日本で過ごした楽しい日々がとても懐かしい、そしてまたお会いしたい……

〇感想文 ————— 黄 仁英

日本で本当に楽しく貴重な時間を過ごした。大阪では日本人と韓国人が半々かと思うほどに韓国人が多く、驚いた。

ホームステイをする前までに日本の金閣寺、法隆寺など、多くの寺を見たが、韓国と似ているなど強く感じた。国史教科書で学んだことも実際に見ると少し違っていただし、我が国の史跡よりも良い状態で保存されていると感じることが出来た。ホームステイは活気にあふれ、文化的な生活をしているユカのお母さんを見て、素敵だと思った。実際に韓国語もよく理解し、大きな負担もなくホームステイすることが出来た。みんなにこやかな表情で親切にしてくれて有難かった。多くのことを経験し、感じさせてくれた旅行であった。

〇友に会う旅 ————— 鄭 知銀

私は元来、日本という国に対して、そんなに関心を持っていなかった。韓国と日本は、いろいろな面で競争関係にある国どうしだと思っていた。しかし、それは今年の2月までのことだった。2月に光州を訪問してきた日本の学生たちと何日も交流するうち、“自分たちとどこも変わらない！友だちにな

れる人たちだ！”と実感したのである。そして8月の日本旅行まで日本語や日本文化を一生懸命勉強して備えた。

8月3日の朝10時過ぎ空港から飛び立った飛行機は、わずか1時間20分ほどで関西空港に到着した。

まず、こんなに近くにあった国なんだと認識を改め、次に街々の環境の美しさに強い印象を受けた。3日と4日は大阪と京都を見物した。大阪では四天王寺、京都では金閣寺や平安神宮などを見たが、いずれの建物も朱色や金色に彩られ、華やかさが印象的だった。

5日の日は奈良で日韓市民ネットワーク・なごやのメンバーと出会い、以後ずっと行動を共にした。

この日、法隆寺へ行く途中、日韓市民ネット側で用意してくれた弁当を食べたが、この弁当にも感動した。というのは、弁当の真中に日本の国旗の日の丸そのままに、大きな梅干が入っていたのだ。これも日本を印象づけようという配慮ではないかと思いながら、美味しくいただいた。

法隆寺は韓国の授業にも出てくる有名な寺で、三国時代に高句麗の僧、曇徴（どんちょう）が日本史上最初の本格的な絵画作品といわれる金堂の壁画を描いたことで有名である。残念ながらこの壁画はすでに火災で消失していて見ることはできなかった。しかし1300年もの間、保たれてきた堂塔伽藍（どうとうがらん）の雄大な風景には心うたれるものがあった。また寺で一番偉いお坊さんから、この寺の最初の管長は、百済から来たお坊さんだったことや、寺を建立した聖徳太子に仏教を教えたのも高句麗や百済のお坊さんたちだったと良い話をいろいろ聞くことができた。

翌日も興福寺や東大寺の大小さまざまな素晴らしい仏たちに出会ったのち、名古屋に向かいホストと会った。

私のホストはナツコさんだった。私が2月に光州でホストとして受け入れた学生はヒトミさんだったが、事情があってナツコさんがホストになってくれたようだ。学生ではないがお姉さんと呼びたい感じの人で、韓国語もとても上手だった。彼女のお母さんも韓国語はできないものの“長旅だから、さぞ疲れているだろう！”といろいろ気づかってくれている様子で、親切な人だった。夕食は豚カツにサラダほか、いろいろとある洋食スタイルだったが、キムチもあってうれしかった。

次の日からの2日間も目まぐるしく、あちらこちらと出歩いた。何ととっても楽しかったのが名古屋港水族館だ。イルカやシャチのショーは初めて見たが、あまりにもハラハラドキドキで、興奮しながら興味深く見る事ができた。ペンギンも本当に可愛かった。

名古屋国際センターにも行ったが、ここは様々な国籍の人たちが出会い、様々な情報を得たり、互いの言葉を教えあう場のような場所だった。光州にはこんな機能を持つ施設はないので羨やましかった。

2日目の昼前には、2月に我が家に泊まったヒトミさんやサキさんなどとも会い、オアシス21やテレビ塔、100円ショップなど名古屋中を走り廻った。この後、韓国学校で開かれた“交流の夕べ”に出た。

会場の真中には美味しそうな食べ物がずらりと並び、たくさんの会員が集まっていた。この夜、お腹いっぱい食べ、いろいろな人といろいろな会話を交わした後、2月に交流した日韓の学生たちでカラオケに行き、深夜まで歌い続けた。

日本での最後の日、ナツコお姉さんは私がヒトミさんと心ゆくまでつきあえるように！と、私を自由に行動させてくれた。ナツコさんの思いやりの深さと、その日一日を一生懸命案内してくれたヒトミさんのがんばりには、感謝の気持ちでいっぱいになる。

今度の旅で日本をもっともっと知りたいという気持ちが強くなったし、日本という国が好きになったのも事実だ。

日本にまた行ってみたい！

○私の初めての日本旅行 ————— 朴 善英

8月3日、日本に出発する日、2ヶ月前から準備していた旅行であったが、生まれて初めての外国旅行でもあり、私はとても興奮していた。

前日の夕方よりYMCAに集まり、晚餐に登場した歌も二番まで歌い、言いたいことも全て言ったが、すらすらとは言えなかった。午前3時半を少し過ぎた頃、一番遅れてヒョジョンが到着するとともに、私達は出発の準備をした。小さなミスはあったものの、大した無理もなく金海に向かった。

外国旅行は初めて、また初めて乗る飛行機でもあり、空港に入るだけでも私の心はドキドキしていた。すこし田舎者みたいだが、心がときめくのはどうしようもなかった。荷物を予め積んで手続きを

踏んだ後、あまり美味しくないもののやや値段の張る朝食をとってから飛行機に乗った。

飛行機では綺麗なスチュワーデスのお姉さん達の親切なサービスが待っていた。日本に行く時間は1時間20分程度なので、離陸してから食事を終えたと思ったら着陸の時間になった。飛行機の中では私達がいかに田舎者であるかを思い知らされるようなことが沢山待ち受けていた。誰もが窓側に座ろうとしたし、降りる時には機内のあらゆるものを記念に持ち帰ろうとしたりした。

<中略>

4日目、高さ15mもある大仏を見て、日本の先生の説明を聞き、珍しいものを見て回ってから名古屋韓国学校へ移動した。

この日はアヤカの家ホームステイを始める日だった。あらゆることを知りたくて緊張した。初めて挨拶する時、アヤカのお母さんが一緒にされた。

アヤカとあまり似ていない印象なので、少しづつだがかなり緊張した。車に乗る時、お母さんがふざけてハスキーな声で語りかけてくれて気が楽になった。アヤカの家は大して遠くないところにあった。家に入った瞬間、ワンワンと、私を驚かせたのはアヤカの家族の一員であるヒメだった。真っ黒で短い足に体は長いヒメは、随分と私が気に入ったようで、私の足の上に上がって来たりした。しばらくして、小さくて愛らしい姿のアヤカのお祖母さんが私を歓迎してくれた。シャワーを浴びて、夕食をした。私のために準備してくれたキムチ、チャプチェ、イカの炒めものなど、とても美味しいものばかりだった。アヤカの倍もの御飯を平らげた。10時頃、背が高く、体格の良いアヤカのお父さんがいらっしゃった。ちょっとおかしい発音の英語で私を楽しませて下さった。夜遅く、遠くまでゴルフツアーに行っていたアヤカの弟が戻って来た。弟は、ゴルフでホールインワンを決め、予定より早く戻って来たのだそうだ。家族が集まり、弟のホールインワンを祝いつつ、語り合った。気楽で暖かい感じがとても良かった。私の家では簡単にはこうはならない。アヤカの家族が皆私を待ち望んでくれたことがとても有難く、嬉しかった。

5日目、アヤカとともに朝食をとり、急いで名古屋水族館へ向かった。日本の海を見たいという私に、人が多くて混雑している海水浴場よりも、比較的楽なところへ連れて行ってくれたのだ。愛らしいイルカ、鯨のショーと、ペンギン、熱帯魚など、見所が多く、3時間がすぐに過ぎてしまった。夕方の花火大会のため、急いで家に帰らなければならなかった。家に帰り、アヤカがプレゼントしてくれた浴衣をお母さんが調節して下さい。思ったより涼しく、セクシーな服なので抵抗もあったが、一番記憶に残る思い出になった。私達は山田ゆう、チミンとともに浴衣を着飾って祭りに行った。

空も心無いもので、花火大会が始まった頃に恐ろしい夕立が降り始めた。土砂降りになったのであきらめそうになったが、共同駐車場に車を止め、稲妻とともに花火大会を見ることが出来た。天をつんざく稲妻と綺麗な色と模様の花火は、奇妙な取り合わせだった。

6日目、とても暖かくしてくれたアヤカの家族とともに写真を取り、別れを惜しんで家を出た。アヤカと名古屋のオアシスを見て回り、ショッピングを楽しんだ後、韓国学校へ移動した。そこで私達の旅行を助けてくれた日韓市民ネットワークなごやの会員の皆さん、ホームステイ参加者全員とともに交流する晩餐が開かれた。若輩の私達に対しても気さくに話しかけて来られるおじいさん達や、親切な日本の方々と会い、美味しい料理を楽しむ時間だった。日本の友人が韓国へ来た時に、私達もこのように多くの韓国の人々と交流する機会を作ってやれなかったことを思うと残念だった。晩餐の後、夜遅くまでカラオケ飲酒三昧を楽しんで、私達の最期の晩は終わった。

7日目、最後の日、旅行線というものはいつもそうなのだろうが、慌しく荷物をまとめ、新幹線に乗るために移動した。新幹線に乗る直前、山田さんと最後の写真を撮った。私達二人の顔だけ写した写真だが、胸にジーンと来るものであった。ともに別れの挨拶をして、新幹線に乗った。初めて関西新空港に到着した時のよう

に、持ち物をあらかじめ積んでから免税店でお土産を少し買ってから飛行機に乗り込んだ。

韓国に帰る飛行機、光州に帰るバスの中で、心はとても安らかだったが、親切な日本の方々、日本の姿、そしてアヤカの家族は私の胸をひたすらわくわくさせていた。アヤカのお祖母さんとお別れる時、お祖母さんの目に光っていた涙を思い浮かべ、再びまた韓国と日本は友人であるとの思いがした。

そして私達に何一つ不便なく細かいところまで気を使って下さった後藤先生を含む、日韓市民ネットワークの皆様御礼を言いたい。

〇感想文 ————— 姜 暁貞

2004年2月の冬、日本の友人が韓国を訪問した時は、韓国だったので言葉についての負担は大して大きくなかった。大部分の人がそうであったように、私も日本の友人を迎えるために言葉を学ぶ

というよりは、友人達が準備して来ることだろうと速断していたのである。思ったとおりではなかったものの、韓国語が上手な人もいて、出来ない人に対しては下手ではあっても英語である程度の意思疎通が可能だった。しかし今回は私が訪問する立場だったので、言葉に対する不安がないわけではなかった。まあ何とかなるだろうという気持ちがあった。大して準備もせず、一緒に行く人が多いこともあって、べつに心配はしていなかった。

<中略>

3日目、日本の友人と合流する日である。友人同士でも久しぶりに会えば、お互いにぎこちないところがあるものと決まっているが、半年ぶりに再開した面々なので喜びの方が大きかったし、その間インターネットを通じてたまに挨拶しながら過ごした友達もいて、思ったよりスムーズに終始一貫和気藹々とした雰囲気を維持することができた。

○夢に見た日本旅行 ————— 文 喜美

いつかは行って見たいと思っていた国、日本・・・

YMCAで日本と国際交流をするという話に心が躍った。交友チームに日本の学生達が光州でホームステイをするという情報を聞いたときのことである。日本学生達はどのような考え方をもっているのかと聞いてみたかった。そして参加したいと思ったのにもかかわらず参加できなくなって惜しさを抱いていた私にもう一度チャンスがおとずれた。今度は私が日本にいけるのだ。友達とお金を蓄えてツアーで日本に行こうねと約束していたところに幸運が舞い込んだ。

ただ問題が一つあった。

私は出発の前日に「日本に行くことになった」と一時間かけて父に打ち明けた。父は「おまえが日本へ行くようになるとは思ってもよらなかった」と言った。行きたい思いを父に説得しやつのこと日本訪問団の参加の許可を得た。(_;)

とうとう日本に出発する日がやって来ました。

何時間後には間違いなく光州でも韓国でもない日本に到着している私を想像しワクワクしながら飛行機に乗った。機内食を頂いているときである。ふと飛行機の窓をのぞきこむと日本列島が見えるではないか。なんと！韓国と日本がこんなに近いとはと今更ながら感じました。

大阪関西空港に到着して入国手続をしたが実際に日本の土を踏み込むまでは長い時間がかかった。

空港を出てみるとあちこちに漢字混じりの日本語の看板が目にとまりました。重いかばんを持ってユースホステルまでの道のりはずいぶん遠く感じました。宿舎でユースホステルとハングルで書かれた小さな看板と宿の主人の韓国語を聞いてはじめて日本へ来ていると感じた。

宿舎に荷物を預けるとすぐに大阪城へ向かった。大阪城では行事をしているようで祭りのようであった。観客には浴衣姿の女性もいて異国を感じました。我国の城とはたいして違いがないと思っていたが実際の大阪城は大きく感じた。

あちこちで記念のハンを押す面白さもあったが時間制限もあってすべて見回すことができなかった。記念のハンをすべて押した人に限りお茶とバッチの記念品が貰えるということで頑張ったが残念ながら実現しなかった。

大阪城の次は四天王寺へ行った。日本語の名称と漢字の名称が違って同じ場所でも別の場所のように勘違いすることがあった。とにかく私たちは写真を撮ることで一生懸命でお腹がすくのも忘れていた。宿舎での夕食はカレーだった。夕食をさっさと平らげて大阪の夜の街並みを見てまわった。心斎橋、道頓堀など繁華街を見学した。ホームレスの人たちがあまりにも多く驚きました。あちこち歩き回り痛い足を揉みほぐしながら眠りについた。

二日目、起床時間6時30分、夏休みで朝寝坊になれていた私にはあまりにも苛酷な試練であった。腫れた目をやっと見開き、早い朝食とともに京都観光が始まった。大阪観光はガイドがなく仲間同士で見学したが、京都観光は現地の方二名のガイドと一緒にだった。韓国学校に通っている方だけあって韓国語がとてもお上手でした。一日バス乗車券を購入し最初は金閣寺へ行った。池に浮かぶ金で飾った建物、本物の金で造られているというのが小さな彫刻物一つだけでも一体いくらになるのだろうか！(@. @)

金閣寺の次は北野天満宮へ行きそこで友達にプレゼントする扇を買った。次は風格のある平安神宮。そこで昼食をとった。カレーうどんというメニューを頼んだがうどんは韓国と違いはなかったがカレーはとても塩辛く口に合わなかった。食事が終わって食堂を出ると短いスカートの制服を着た学生たちの姿が目にとまった。日本の女学生達とも一緒に記念写真も撮った。

次は清水寺という景色がとってもいい所だった。願いを祈ることができる所もあり、皆の関心事は

やはり健康、学業向上、芸能人の夢が叶うという願い事である。

次は耳塚という供養塔がある所へ行った。高等学校の歴史で壬辰の乱のとき日本軍がわが国の人々を殺し鼻や耳を持ち帰りそこに葬った場所であると聞いた。供養塔に到着するやいなや足がすくみ胸が痛かった。耳塚を最後に京都見学の日程はすべて終わった。

大阪に帰って来て回転すしで夕飯を食べたが寿司が好きな私はとても幸せでした。日本食は甘辛い味が主で口に合わないが寿司だけは大好きです。夕食の後は100円ショップに寄りました。その日はみんなと夜遅くまでお話をしてから寝ました。

翌日は寝不足で疲れたため電車の中で眠ってしまいました。目が覚めたらすでに奈良に到着していた。奈良で日韓市民ネットワークなごやの交流チームと合流し一緒に見学しました。古墳から出た遺物を展示した博物館と金堂壁画がある法隆寺に行きました。金堂壁画は歴史で学んだことがあり直接見られると期待してたが消失して見られなかった。法隆寺では僧侶に仏教の伝来の説明を聞きました。

夕食後は乗車料金の高い自動ドアタクシーに乗って繁華街へ向かった。奈良のライトアップした夜景は素晴らしかった。居酒屋に入り日本の札幌ビールを味わった。

翌日、奈良公園に行き放し飼いの鹿たちが印象的だった。公園には1,200余匹の鹿たちが群れて暮しているそうだ。鹿たちを近くで直接見られるだけでなく触れることもできてまるで鹿農場にいるような気分でした。次は東大寺へ行った。建物の曲線が柔らかく世界最大の木造建築物で大仏像もあり有名な所だそうだ。その大仏像を磨くのに220人の人手がかかり私たちの見学の翌日がお風呂に入る日であった。もう一日遅れて訪問したら大仏を磨く姿を見られたのではなかったかと残念である。大仏殿の中には珍しい柱があり柱を貫く穴が一つあいていてその穴を潜れば命が延びるそうだ。その穴の大きさが子供がやっと潜れることができる狭い空間であるため潜って見たかったが無理でした。大仏殿を出てから名古屋韓国学校までは約2時間30分ほどかかったがずっと眠っていた。予定より早く名古屋韓国学校へ到着したので私たちは少し歩いて名古屋駅を見物した。名古屋駅には二つの高い双子ビルが印象的だった。午後6時始まるホームスティパートナーとの出会いの会に遅れてしまった。私のパートナーになるナカさんは在日韓国人三世で韓国に4年半留学をして今は会社に通っている。日本語がよく分からなかったため心配していたがナカさんは韓国語が堪能で意思疎通ができて私には大変良かった。

ナカさんの家は前庭とガレージが付いた大きな家で家族7人が生活していたのだが、今はナカさんの父母と三番目のお姉さんと弟さんだけで暮らしているといった。夜の2時までナカさんといっぱい話をしてホームステイの初日をおくった。

次の日9時頃に起きてナカ姉妹と伴に朝食を食べてから長女の結婚したタカコ姉さんの家に立ち寄り昭和村へ行った。韓国の民族村みたいで1970・80年代の雰囲気です。昔のお菓子やおもちゃ等があり機織りも直接体験することができた。私たちは陶磁器作りに挑戦した。幼い頃、韓国で陶磁器づくりの経験もあって簡単だと思っていたが結構難しかった。私は作るものすべて台無しにしてしまい係員のおじさんがすべてしてくださった。一ヶ月後に焼いて韓国まで送ってくれると言った。

夕食は大きいお姉さん家で食べる事にした。タカコ姉さんがお好み焼きと焼きそばを作ってくれた。初めて試食するお好み焼きとてもおいしかった。大きいお姉さんは舅さんと一緒に住んでいて優しい人柄だった。会話はできなかったがとても暖かい家族的な雰囲気を感じる事ができた。初めてのホームステイでどんなパートナーであるか心配していたがナカさんに会って本当に多くのことを学んだ。

この日本旅行で一番良かったことと一つあげろといえばホームステイが一番よかったといえる。ホームステイ最終日は名古屋港にある大きな水槽館だった。水族館へ行く前にナカさんの家族たちと別れの挨拶をしたがもっと一緒にいたかった。そしてとても優しくしてくれたナカさんに感謝したい。水族館で見た可愛いイルカショーは感動の連続であった。韓国学校でのパーティの後、ナカお姉さんと別れるのがとても辛く名残ほしかった。

いまは日本に行くことがわかっていながら日本語の勉強をできなかった自分に後悔している。再び日本へ行く機会があれば(来年の予定)日本語の勉強としっかり準備をしてから行こう……

○また行きたい国 _____ 朴 秀珍

短くもあったが、長くて実り豊かだったとも感じた、私の日本への旅！

最初の何日間は、ここが韓国なのか日本なのか見分けるのが難しい印象があった。現代的な都市の風景、人々の表情や服装、それだけを見ていると、本当に区別するのが難しいのだ。じっと目を凝らすと車の往来が韓国と正反対になっていることや、人々の話している言葉が違っていることが分り、「やはりここは日本なんだ！」と納得できた。

日本での最初の2日間は、“日本の中の古代朝鮮”を大阪や京都に訪ねた。四天王寺や平安神宮などの社寺の姿は、想像以上に華やかで雄大だった。これも古代日本に深く影響を与えた百済の影響だったのだろうか？。3日目からは日韓市民ネットワーク・なごやの人たちや2月に光州で出会った学生たちと奈良を旅した。

奈良は古代朝鮮から多彩な文化が流れ込んだ土地で、奈良という地名も“国”という意味の古代朝鮮の言葉から起こったようだ。

百済の人、王仁博士が千字文を持って海を渡ってきてここで大和王朝の貴族たちに漢字を教えたといわれている。百済から渡来した王仁は果たしてどんな言葉で貴族たちに漢字を教えたのか疑問だったが、誰かがこんな説明をしてくれた。曰く「当時の大和朝廷の中には、古代朝鮮から渡来してきた人やその子孫がかなりいて、百済語での授業でも理解できたのではないだろうか…」と。私たちの先祖である古代朝鮮の人たちが、そのようにたくさん日本に渡って来ていたらしいことを知り、日本がさらに一歩近い国になったような気がした。

8月6日、私たちは名古屋に入り、ホストの家にホームステイした。私のホストは宮本昌子さんだ。2月に私が光州でホームステイを引き受けた井上サキさんの叔母さんである。宮本さんの家は名古屋でも高級住宅地といわれる一角にある立派なマンションだった。ここで私は宮本さんとサキさんと3人で過ごすことになった。

私とサキさんに与えられた部屋は広い和室で必要なものが全部揃っていて、まるで韓国の親戚の家に来ているようだった。

宮本さん宅での食事はカレーやパン食など欧米風の内容だと思った。次の日はまず商店街や100円ショップを廻り、土産にする風鈴6個他の買物をした。

夕方、花火を見に行く前に宮本さんが私たちにきれいな浴衣を着せてくれた。自分の浴衣姿が嬉しくて、この体験はホームステイ中のハイライトだった。この夜の花火は、あいにくの雨の中で開かれた。私たちは建物の中から美しい花火を楽しんだ。

さて、この日の夜にはテレビで例の超人気番組“冬のソナタ”の放送があった。宮本さんもこの番組やペ・ヨンジュンのファンのようだが、“冬のソナタ”がなぜ日本の中年女性たちにこれほどの人気があるのか不思議な気がした。

それから、この家の中には至る所に猫の置物があった。他の日本人もけっこう猫が好きなように見えた。こうした動物を可愛がる風土の中から、かのキティ人形も生まれたんだと納得できた。

私は今度の旅で大きな収穫があった。日本人と出会った時、言葉は充分に通じなくとも目で相手の思いをはっきりと感じ取ることができたし、互いを理解することができた。今度の出会いは、まだ近くて遠い感じもある韓日の距離を一気に縮めてくれたような気がする。今回の旅は、私が生きてゆく上できっと貴重な原体験として、私の中で生き続けることだろう。

○韓日学生交流の新しい指標を目指して —————光州 YMCA 監事 朴・相熙

日韓交流の歴史に再び照明を当て、これを通じて新しい交流文化を創って行こうということで進められた2004年韓日学生交流活動が大団円の幕を下ろした。

私達は学生交流を通じて韓国と日本は過去の偏向的なイデオロギー的思考を克服し、人類愛的普遍妥当な価値と理想が決して違わないということを身をもって体験した。同じ思考、同じ行動様式、そして異なるもののよく似た言語形態などは、文化的な行動様式が同じ根を持って成長発展したことを直接間接的に確認するよい機会となった。

日本という国が出来る前、韓半島では三韓、高句麗、百済、新羅人が倭に移住し始め、6世紀には仏教や漢字等を伝えるようになった。

以後、韓国人は歴史や時代が直面する状況により日本に移住した人々が継続的に発生するようになり、現在の在日韓国人に至るまで、両国は人的往来により文化交流の花を咲かせたことを確認した。

日本に根を下ろしている韓国文化を探しに行くツアーを通じて、韓国の文化は日本内にて日本の歴史発展の牽引車の役割を果たし、日本文化を先導する役割を果たしたことを知ることが出来た。

優れた経済力とレベルの高い気遣い精神において彼らの文化的強みを求めることが出来、心を開かぬ閉鎖的な思考と自民族優越意識はグローバル社会が要求する様式に反する行動様式を持っている、とある者は言う。

交流の回数を重ねるごとに交流の成果として現れていることがあるので、列記してみよう。

まず、不毛な交流環境にあった光州YMCAの交流レベルを上げる良い機会になった。韓中日のYMCA交流を除き、青年学生交流の始発点になり、交流が繰り返されるたびに交流のレベルが日々高く

なっていることが判る。

第二に、グローバル社会に能動的に対処する能力を向上させている。国際交流は自国中心の思考を他者志向の思考に、一元論的思考から多次元的思考への転換をさせ、新自由主義と世界化に能動的に能動的に対処する能力を育ててくれる。

第三に、硬直した歴史認識に変化をもたらしたということだ。間違った官製の歴史教育をそのまま受け入れて来た青年学生達の歴史認識が日本の歴史文化体験を通じて公正かつ相互的な思考への転換をもたらしたことがわかる。

日韓市民ネットワークと光州YMCAとの間に進められて来た韓日学生交流活動が4年目になる。一年おきの交流という限界はあるが、近くて遠い国として存在していた日本を新しく理解する良い機会になった。韓日学生交流が持続性を持ち、交流の質的向上をはかるために必要ないくつかの条件を提示してみたい。

まず、一年おきの交流の限界を克服しなければならない。約7日ほどの交流をするために参加者選定から日本を知る学習、そして細部にわたる交流日程を作るのに6ヶ月ほど交流参加準備をする。そして交流が終われば、この組織は自然に消滅する。こんな形で4年間交流を続けて来たが、交流活動推進の成果として残ったものはさほど多くない。これを克服するには、一年おきの交流から毎年の交流への転換が必要である。

第二に、高校YMCA、大学YMCAの参加が活発にならなければならない。これまでの参加者選定が、言語疎通を考慮して大学の日本語専攻者を中心に選抜され、YMCA内でサークル活動に参加したり、支援奉仕活動に参加している学生達の参加が見送られて来たのが実情である。

何回かの交流を通じて確認されたように、言語疎通の問題は不便だけで、交流を不可能にする絶対的な要素ではない。高校YMCA、大学YMCA、支援奉仕者達の参加を十分に確保してあげることが青年学生の指導力を開発する上で良い方式だと思う。

第三に、日本文化と歴史を事前に学習することが必要である。一般的に交流というものは、交流対象国家の文化と歴史に対する事前学習が行われた後に交流に参加することが基本である。しかし私達の学習は進行のための進行以上の何ものでないという限界を明白に示している。学習が行われなければ交流参加を制限するぐらいの、しっかりした学習が必要である。

第四に、人員の適正性である。交通と宿泊、管理及び統制の難しさなど諸般事項を克服して、交流の効果を極大化するためには、適性な人員の選抜が重要である。多くの交流参加人員は、教育的効果を極大化する上で障害になって来たことを、事例を通じて接することが出来る。低いレベルの交流を、学生達の積極的な参加と彼らの内在的な思考と創造的価値を外に出す一段高いレベルに移行する交流のモデルを作っていくことが必要である。そうするためには実務者のたゆまぬ苦悩と実務的業務を管掌する担当者達の持続的な対話が何よりも必要である。交流についての苦悩は、交流の質に他ならないことは明白である。

2004年韓日学生交流活動に参加するために、忙しい時間を割いて参加した学生達が交流の主人公であることを知っており、彼らに十分な配慮をして活動の中心に立つようにするため、努力を惜しまなかった。韓日学生交流活動が追求しようとする教育的価値を実現したかどうかについては疑問の余地があり、甘かった考えや弱い意志力についても反省の余地があると思う。

60代な高齢にもかかわらず韓日学生交流の実務的なあらゆる業務を総括なさった日韓市民ネットワークなごやの後藤先生に深く感謝する。

また交流準備と進行において終了時間までいろいろと関心を持ち手伝って下さったカン・ヘンオク団長にもこの上ない尊敬と感謝をしたい。2004年韓日学生交流活動が盛況のうちに終えるように自分の役割を誠実に遂行なさった日韓市民ネットワークなごやの会員の皆さん、及び韓国と日本の参加学生にも感謝したい。

韓日学生交流が末永く発展し、近くて遠い国でなく、いつでもすぐに行ける近い隣同士になって欲しいと思う。

◇ホスト側

○二人は何を知ってくれたか？ ————— 会員：鈴木 聰一

金 生勲君（大学2年生）と、朴 生烈君（高等学校2年生）の二人が来てくれました。わが家にとっては久しぶりの韓国学生ホームステイでした。辞書と英語と挨拶程度の韓国語と日本語で国際的な風に当ることができました。

第1日目の夕食はカツカレー、小学校の孫娘が横を向いてお茶を飲む二人の姿を見て不思議に思っていました。説明を聞いて暫くの間そのように実行していました。

目上の人・尊敬ということを体で教えてもらった様で有り難いことでした。

第2日目、午前中に徳川家康生誕の岡崎城とお墓のある大樹寺に行きました。「徳川様」といって興味深く見学してくれました。

この日は、岡崎の花火大会の日で朝から「音の花火」が上がり、祭りの雰囲気でした。わが家の屋上にゴザを敷いて見物場所を作りました。わが家の親戚も集まり、総勢18人で大賑わいでした。メインは「寿司」。いろいろの種類を取り混ぜて出しましたが、二人とも「カップ・鉄火・まぐろ・アナゴ」等、どんどん食べてくれました。高校生の朴君は、親戚に教師が多いものですから「高校生は飲んでいいのか？日本では・・・」言われてビールを飲みませんでした。2万発の花火には満足してくれたようです。

三日目、午前中に私の得意料理「五平餅」を一緒に作りました。

私が幼少の頃の祖母の味です。二人とも握って串に着けましたが、結構形は様になっていました。「マシッソ」と言ってくれました。記念に5本持って行きましたが、冷めてから食べた友達は「味」どうだったかな、と思っています。

「花火」と「徳川家康」が、金・朴君のお土産になったかな？と思っています。

わが家にとっても思い出の二泊三日でした。

○今はすごく韓国ブーム ————— 会員：加藤 恵志

8月9日、名古屋駅より韓国へ光州の学生が帰って行きました。今もその時の学生の顔を思い出すたびホームステイをやった良かったと思います。パク・サンヒさんとは二回目になるので久しぶりに再会する友人みたいで気を使う事もなく過ごす事が出来ました。今回はあまり時間がなくて、近くの足助町に行き、ここはみなさんも知っている通り、三河湾でとれた塩を信州に運んだことから「塩の道」と呼ばれて、街道とともに栄えた町です。二人で町並みを散策しながら中馬館に寄って帰りがけの時、受付の奥様が「この人、韓国の方ですか」と聞いたので「そうですよ」と言った途端に冬のソナタ、韓国の映画・音楽。私を通り越して二人で盛り上がっていました。映画の名前、人の名前、少しの単語だけで理解出来たみたいです。そして五平もち屋に寄った時もそのようで「足助も韓国ブームなんだなあ」と改めて思いました。パクさんもびっくりしたようです。このブームが長く続いて文化を理解して、より良い関係ができるように願っています。

○スジンとの2日間 ————— 会員：宮本 昌子

姪の井上咲希と一緒に、初めてのホストをした。7日の予定をいろいろ考えて、明治村に行こうか名古屋城夏まつりにしようかと「行きたいところはどこ？」と聞いたら、スジンの答えは「大須」だった。大須といえば大須観音。そこでお寺へ行きからくり時計を見たり、商店街を巡って、かき氷を食べて帰ってきた。後日、彼女は大須のどこへ行きたかったのか考えた。アメ横とかパソコン関連の店へ行きたかったのでは・・・と気が付いたがもう遅かった。本当はどこへ行きたかったのかな？

普通の日本の生活を体験してもらおうと、特別お客様扱いしなかったけれど、日本での体験はスジンにはどう映ったのだろうか。

浴衣を着て近所へ出かけたこと、夕立のためベランダで花火をした時の楽しい笑い声が、今も我が家に残っている。

先週スジンから手紙をもらった。写真と日本語のお礼状だった。日本語が書けるなんて・・・こんなにきれいに。

今度は私がスジンに負けないよう美しいハングルで返事を書かなくては。

○やっと来てくれた！！ ————— 会員：梅田 徹

2年連続してドタキャンだったホームステイ、今年も女房の賛同を得てホームステイを受け入る。しかし、本当は飛行機が到着するまで半信半疑、(と言うのも、去年は当日の飛行機に大学生が乗っていなかった。女房は部屋の模様替えを初め色々と努力をしてくれたのだが。)しかし今年は間違いなく到着した。京都・奈良の旅行を終え、学校で対面したヤン・イルファン君、見るからに気のよさそうな若者、雰囲気が私の次男に似ている。(実際に彼の後姿を見て、私の兄は次男と勘違いした。)早速我家に向かう車中で彼と韓国語で話すのだが、何せ当方に運転しながら話せるほどの語学力がなく、聞き取りに四苦八苦、事故を心配しながらの運転だった。最初の夜は私達夫婦と兄の4人で会食、何が良いかと悩んだが、韓国の大学生からの助言もあり、お好み焼きと焼きそばにする。たぶん彼は焼きそばが初めて、

最初はチョット躊躇したが、一口食べると満面の笑みで“N o. 1”と言って2人分をたいらげる。お好み焼きも“イルボンパジョン”と紹介すると美味しそうに食べる。私の兄からは“マルちゃん”と渾名をつけられ、これ以降3日間“マルちゃん”で通すことになる。2日目はトヨタ博物館に行く。やはり若い大学生、トヨタの車と世界の名車に感激している。(もっとも私が子供の頃や学生時代に憧れた車に再会し私が喜んでいたのでかも・・)少し疲れている様なので自宅で休憩後、夕食の準備でスーパーへ一緒に買い物に行く。旅行者があまり立ち寄らない日本のスーパーも良い経験だろうと思い、店内をゆっくりと廻る夜は息子とその友人男女4名、姪、私の兄が参加してのバーベキューパーティー、やはり若い者同士、息子やその友人、姪と話が弾んでいる。若者は英語で、私の兄はブローケンイングリッシュ、私は流暢な韓国語？(学校で勉強しているためか、難しい本は読めても簡単な会話がでてこない。愕然！)と国際色豊かなパーティーでした。(お互い若者同士、なんの垣根もなく交流してくれたことに感謝する。)途中土砂降りの雨になり、我家の駐車場に場所を移して夜遅くまで盛り上がる。(私は酔っ払って知らぬ間に寝てしまう。彼は皆と一緒に後片付けをしていたようだ。不覚！)

3日目は本人のたつての希望で名古屋城と大須へ行く。名古屋城は大きくて美しいと絶賛し、大須では人の賑わいと大須観音に吃驚していた。大須を散策しながら食べたみたらし団子が気に入ったようだ。彼は親孝行で、父上へのお土産に万年筆を買いたいとの希望、一緒に店を探す、今は万年筆を売っている店が無い(新しい発見)。結局デパートで購入するが、この万年筆どうしても買いたかったようで、初日から買えるかと心配していた。私が“息子に爪の垢でもせんじて飲ませたい”と言もらすと、意味を教えてくださいと言われ困惑する。意味を教えたら一生懸命に覚えていた。教えたのが良かったのか？悪かったのか？(ご祖父は日本語が達者と言っていた。)

韓国学校での歓迎会では時間が過ぎるのも忘れて楽しく歓談できた。彼は訪問団の中では人気者のようだ。名残は尽きなかったが再会を約して別れる。無事に帰国する事を妻共々祈る。帰国当日の夜10時頃、無事に帰ったと電話をくれた。若いのによく気が付く。光州に必ず行くと約束する。あつと言う間の3日間であつたが楽しい思い出となった。これからも続けられる間は毎年受け入れようと、女房と話す。ささやかではあるが、これが日韓の親善、これからの若い人の交流の手助けになれば幸いである。貴重な経験の場を提供してくださる日韓ネットワークの世話人の方々に感謝している。最後に、朝食で食べた納豆、美味しいと言っていたが本当に美味しかったのか・・・？未だに不明、まあ、いいっか、ケンチャナヨ！！

○感想文 ————— 会友：今泉 慶太

いよいよ光州訪問団がやってくる時期となった8月上旬、久しぶりに本棚から“チョンマルブック”を引っ張り出し手にとった。この本は2月に光州に行く準備として買った物だが、それ以来すっかり日に当たっていなかった。そのチョンマルブックと少々荷物を持ち、東京のアパートから愛知県向かうと実家では家族が少し早い大掃除をしてくれていた。久しぶりの再会が近い事を改めて感じ胸がおどった。

また、家族皆で自由行動の日は何をしてあげようかなどとあれこれ考えたのも面白かった。そして考え出した結果は『とにかく日本というのを楽しんでもらおう』となったのだが、自分達の生活に意識をして目を向けてみるとあまりに欧米化しすぎていることに驚愕した。その時ふっと、光州で『韓国人と日本人が会話するとき使う言葉が英語というのは…』という先生の話の思い出した。欧米文化が悪いわけではない、私たちがもう少し日本の文化を大切にすることが大事だと切に感じた。

さあ再会の時である。私がホームステイさせてもらった“ナ・ヒョンギョ”君を受け入れる事になっていたが、言葉などのめんで不安がなかったわけではないが彼にあつてすぐ不安は消えた。と言うか不安を忘れた。彼の笑顔をみてとにかくいい思い出ができればなという思いばかりだった。私達は早速お土産だという大きな箱を持って新城にむかった。ヒョンギョ君も疲れていたとは思いますが家族に対してとても誠実に礼儀正しく接してくれたことに私の家族は胸を熱くした。母が『今の若い人達が忘れてしまった年上の人を敬う気持や礼儀をちゃんと持っていて凄く考えさせられたね』といったように。自由行動の日にはラーメンが食べたいという希望があり昼はラーメンを食べたり豊川稲荷やショッピングなどをして一日を過ごした。何をしたかではなく気持というものが一番大切だと思った。家族も色々な事をしてくれた、私はとても感謝をしている。過ぎてしまうとやはり早かった。特にコレというものもなかったかもしれないが普通の日本の生活を楽しんでもらうことが出来たと思う。今度はまた韓国にいきヒョンギョ君の家にホームステイしたいと思う。それは私達一般人のレベルの交流が日本と韓国との距離を近づけると思うから。そして何よりいい友達だから。そんなことを思い感じる今回の受け入れだった。

○光州学生を受け入れて ————— 会友：中澤 佑香

光州訪問直後は、新しくできた韓国の友達と頻繁に連絡を取り合っていました。最近では忙しさにかまけて、なかなか連絡をとっていませんでした。そんな中で半年ぶりに再会した私たちでしたが、ホストの顔を見た瞬間、懐かしさとうれしさが胸に込み上げてきました。半年前とは服装や髪形も違って、ますます綺麗になったホストのインヨンちゃんにぼーっとみとれている私に、彼女は以前と同じように「久しぶりだね。元気にしてた？」と、韓国語で話しかけてくれました。

今回は自由行動の時間が2日程取れるということで、インヨンちゃんと一緒に何をしようか色々考えた末、母の提案で、私が参加しているヒップファミリークラブの他のメンバーたちと一緒に日本の文化を知ってもらえたらいいなということで、家の近くの公共施設になっている古い日本家屋で、浴衣の着付けとお茶会をすることにしました。黒髪のロングでストレートヘアのインヨンちゃんは、浴衣を着ると等身大の日本人形みたいに美しく、並んで写真を撮っていた私は普段に増して小さくなってしまいました。お茶会では、苦い抹茶を顔をしかめながらも頑張って飲みほし、皆から「どうだった？」と聞かれ、「おいしかった。」と答える優しい彼女でした。その日の夜は毎年恒例の矢田川花火大会でしたが、異例の雷雨。全身ずぶ濡れになりながらなんとか矢田川近くにある叔母の家にたどり着き、叔母の服を借りて着替え、その後は叔父・叔母と小学生と幼稚園の従姉妹とカードゲームなどをして過ごしました。予定外だったけれど、日本語と少しの韓国語で一生懸命説明したゲームを彼女は理解してくれて、皆で楽しめたので、本当にいい思い出になりました。

短い時間で少し残念ではありましたが、私たちが光州で作った思い出と同じくらい沢山の、そして楽しく暖かい思い出を、ホスト初めその他の仲間も作ってくれたことと思います。またいつの日か会えるのを、心待ちにしています。

○感想文 ————— 会友：春日井 絵里

私が今回ホームステイを受け入れた人は、私が二月に韓国でとてもお世話になったユン ナリさんです。韓国では私が行きたいところ、やってみたいことをたくさん叶えてくれましたし、本当にお世話になったので、私はどこへ連れてってあげればいいのか何をしてあげればいいのかととても悩みました。

でも、結局はあまり叶えてあげることはできなかったように思います。浴衣を着させてあげることができなかったし、彼女が十月から通う静岡大学まで連れてってあげられませんでした。それがいまでも心残りです。でも、久しぶりに会ったというのもあり、二人で楽しくたくさん話すことができました。そこで私が一番驚いたことは彼女のすばらしい日本語の上達です。二月の時より本当に上手で驚きました。また、私が大学に入って韓国語を勉強し始めたので韓国語を教えてもらったりしました。

日曜には明治村に行きました。とても暑い日でしたが、彼女には明治の建物などを見て日本について少し分かってくれたと思うし、自分も改めて日本について考えることができたと思います。

彼女は十月に静岡に留学するということでとても楽しみにしています。是非今度は個人的に会いに行ったりして、これからも交流したいと思いますし、彼女に負けない様私も韓国語をがんばって勉強したいと思います。

「明日香紀行」 ————— 参加者の感想文

○明日香に旅して ————— 会員：伊藤 義郎

明日香への旅は、気持ちを同じくする者同志のツアーだけに、実に楽しいものでした。宿の古代食も良い体験でしたし、早朝に宿から眺めた村のたたずまいは日本の原風景そのもので、思わず知らず心は古代の世界に、さまよった次第です。

目をつむると真夏の明日香のきらぎらした風景が鮮やかに蘇ってきます。拙い句ですが旅の印象を次のように歌い込んでみました。

明日香三題

炎帝に ひたすら黙す 石舞台
夏草や 墳は渡来の 貴人らし
白壁の 映えて明日香の 青田風

炎天下極暑の中二日間 7 月 2, 3 日に飛鳥の里を総勢 20 名で訪れました。昨年の秋、韓国伽耶慶州歴史の旅を挙りましたが、この度はその裏付けの企画だと思います。私も含め両方に参加された方も居ますので、大変有意義で貴重な又とない機会でした。

初日はボランティアドライバーの星原幸次郎氏の運転で、マイクロバスに乗り一路東名阪を走り、桜井、天理市を抜け山田寺廃寺を窓外に見て国立明日香資料館に向かう。車中ではご高齢の土岐良文氏の善意による膨大な資料を渡されて会員にとっては有難く思います。四日市インターからは以前韓国馬山から帰化された美女照井静江さんが同乗して来ました。京都からは金岡えつ子様、奈良からは百済王氏の研究者三松みよ子様がそれぞれ参加され高齢男性諸氏には枯れ木に花の賑わいになりました。

現地へ到着し、前もって待機されていた橘女子大学、考古学の泰斗マスコミの寵児、猪熊兼勝教授の名講義を拝聴。早速園内の猿石、顔面石等のレプリカの説明を受ける。韓国石造業者の寄付による定林寺の石塔のコピーを見学。飛鳥寺の痛々しい仏像を拝し資料館前のレストランで昼食を取り、新装成った万葉記念館を左手に眺め、斎明天皇時代の土木工事亀形石造物の遺構の説明を受ける、可也の勾配のある竹藪を通り酒船石の詳しい謂れを炎天下で受講。滝のような汗を拭きつつ一行は目まぐるしくばてることもなく、蘇我馬子の墓石石舞台を見て、明日香歴史公園を通り高松塚古墳キトラ古墳を見学。周辺には天武持統稜、文武天皇陵が見え隠れして、梅雨明けの夏の到来爽やかな緑なす明日香の里が一望され、まさに 大和は国のまほろばたたなずく青垣山こもれる大和しうるわし、の歌が実感される風景です。

1400年前の往時に想いを馳せたのはけだし小生のみではなかったことでしょう。国、県の埋蔵物保護規制で自然が何時までも保たれているようで好感を覚えます。後世までこの素晴らしい景観を保持して欲しいものです。何回尋ねてもわが国民の心の拠り所、故郷であることは確かです。流石猪熊先生ならではのとても尋ねることの出来ない多くの墳墓の上の竹林、草木は、悉く剥がされビニールの作業状態で痛々しい限りでした。残念でしたが嘗て公開されていた墓の施設までは立ち入ることは出来ません。古墳の管理状態が悪くカビが生え再認識を文化庁が迫られている昨今です。

狭くて車の進入も憚らない古都の起伏に富んだ道をベテランの運転手のお陰で私たちはプラン通りの遺跡を巡ることが出来たのです。忠告ですが決して明日香の里は自転車で回るべきではないようです。真弓の丘は悲劇の皇子草壁が埋葬された聖地に相応しく夏草が生い茂り人の立ち入りを拒んでいるかのようなでした。嘗て歌聖豪泣歌人とうたわれた柿本人麻呂が挽歌として肅肅と詠い上げていた情景が目目の当たりに想像されます。泣き人を雇って舎人達が長年嘆き悲しんだ仮葬もがりの地は感慨無量でした。次に踏破した於美安志神社は百済からの渡来人の里でひっそりとした小高い岡には大木が生い茂り夏草が悠久の歴史を秘めていました。後世本居宣長が笈の小文に認めてあった頃から既に平安時代には13層の塔が建立されていたそうです。阿知使主や王仁等の韓国系渡来人はこの桧隈の杜で故郷任那、百済、高句麗、新羅の懐かしい想いに更けていたことだと想像されます。幸いにもこの会でしか行けない牽牛子塚、鑑子塚古墳にも案内して頂き引率の講師の方には頭が下がります。

竹藪の生い茂る中、蚊にどれだけ悩まされたことか知れません。真夏の明日香奈良散策は必ず虫除け、痒み止めを持参すべきです。単なる遺跡の説明だけに留まらず、延々と長い歴史のエピソードから導入して時にはどーと一行が笑いこける様なユーモアも交えて、決して飽きの来ない饒舌な解説に納得しました。宮内庁の管轄宜しき崇峻天皇、景行天皇陵を徘徊して一日目の日程も終焉を迎える頃になりました。

中大兄皇子と異母兄弟の間人姫との逢瀬の場所には相応しい祝戸荘で宿泊。古代料理に和気藹々と親しみ個人紹介に話題は尽きずその後も床に付くまで長い韓日談義は続き酒の力も入り楽しいひと時を過ごせました。プロ朗読者の山田あき子さん、富豪農家の伊藤義朗さんの技の深さにも花が咲きました。安価で充実した今回の会計担当のご兩人ご苦労様でした。現役引退後も矍鑠として二年間もソウル大学の語学講座に通い聴講されていた三重県からの安田守さんには感心します。酒、料理、仏像、留学生の面倒と幅広くご活躍の宮崎淳次郎氏の蘊蓄の確かさには舌を卷きます。

次の日にも好天に恵まれ民間ベテラン考古学者、古墳に関する生き字引と賞賛されている土岐良文氏の独断日、畑中の亀石を見、新沢千塚資料館に入館し、数多い展示品を閲覧、その後数百個の古墳を眺めました、昨年の秋金海市の伽耶の古墳を見たときと同じ風景です。前方後円墳は少なく円墳、横穴式、竪穴式が入り乱れ、それぞれの時代の特徴、貧富の系列、埋葬品の経時的遍歴等を具に理解されました。竹林の木陰では後藤和晃会長の三韓時代の興味ある歴史の蘊蓄を披露されました。橿原考古学博物館に立ち寄り、崇峻天皇陵を拝し有名な黒塚古墳館を最後に皆様のお陰で意義ある百済の

幻影の旅を無事終わりました。報道関係にお勤めになっていただけあり会長の人脈の広さと博識、人徳のなせる業このたびの企画もお陰様で全員満足の行く体験を謳歌出来ました。感謝致します。次回冬の済州島巡りが楽しみです。

うりならのいしずえなりしふよのため
ひのくまもりにいまぞやすらぐ

(‘うりなら’はハングルでわが国、扶余は百済の別名、桧隈は渡来人の里)

韓国光明市在住 二日市 壮さんのソウル便りです。
韓国 在住生活を基盤として幅広くご活躍されておられるレポートです。
今後とも期待しております。

○ 「親日究明法」対象・方法めぐり論争

国論二分する国家保安法の存否 ―― 韓国光明市在住 会員 二日市 壮

9月末の秋夕連休も終わって、韓国国会は保守革新激突の場となっている。争点は親日究明法と国家保安法だ。このうち親日究明法は日本の植民統治時代に日本に積極的に協力したり、韓国人の独立運動家を虐待したりした反民族的人物を特定するという特別法で、今年3月末、保守のハンナラ党が多数を占めていた第16代国会が盧武鉉大統領の弾劾に続いて可決成立させた。半年たった9月23日から施行されたが、この春の総選挙で韓国の政治史で初めて左派中道勢力として国会で多数となった与党ウリ党は、さらに適用対象を広げ、真相究明委員会の権限を強化する改正案を提出、野党ハンナラ党もこれに続いて改正案を出し、両案をめぐって激しい論戦が交わされている。

ウリ党は、適用範囲を旧日本軍の少尉以上とし、真相究明委員会に同行命令状などの調査強制力を持たせようとしている。これは終戦時、日本軍の中尉だった故朴正熙大統領をねらい、その長女であるハンナラ党朴槿恵（パク・クネ）代表の国民的人気を失墜させようとするのがねらいだと、ハンナラ党は強く反発、真相究明委員会を大統領直属から学術院傘下とし、軍隊は憲兵に限ることを主張している。

このように方法論に違いはあっても、日本統治時代の親日行為を明らかにしようという点では両党は同じだ。日本の敗戦とともに反民族的行為者を糾弾する動きはあったが、アメリカ軍政当局はこれを認めず、1948年、大韓民国政府樹立後の49年になって反民族行為特別委員会が設置された。しかし日本統治下で官僚や軍人だった親日勢力がすでに李承晩政権の中枢を占めていたため、数百人が調査対象になったものの、実際に処罰されたのはごくわずか、うやむやになった。それに対して北朝鮮は処罰を断行した。このため韓国人の心の中はずっとすっきりせず、北に対してもこの点でコンプレックスを抱き、真相究明を求める根強いものがあったという。

こうした中で、盧武鉉大統領は8月15日の光復節の演説で、「韓国の現代史は、正義が敗北し不義が勝っていた機会主義の歴史だった」として「わい曲された歴史、漆黒の歴史、屈辱の歴史を正しい歴史に書き換えよう」と述べた。

この大統領の発言を受けて、ウリ党はさらに「過去史真相究明基本法」を制定して1945～61年と、61年以降の2段階に分けて、戦後の混乱や韓国戦争、軍事政権下のヤミの中で行われた数々の不法行為をあばくことになった。軍事政権の流れを受け継ぐハンナラ党にとっては、ボディブローになるはずだ。また、すでにチェジュ（済州）4・3特別法、東学農民革命軍名誉回復法など13の過去史関連の特別法があるので、基本法はこれらを統括することになるという。

この基本法にしる親日究明法にしる、「処罰を目的にするものではなく、真相究明によって名誉を回復させ報奨することに重点をおく」というが、真相究明の結果は公表される。それが現在の子孫たちに影響を及ぼさないはずがない。

現にウリ党議長だった辛基南氏は、父親が日本の憲兵だったことが、8月、月刊朝鮮で明らかにされて議長を辞任した。これに続いてウリ党幹部で国会文化観光委員長をしている李美卿議員も、亡くなった父親が日本の憲兵だったことを自ら明らかにした。同じくウリ党の金希宣議員も父親が日本時代の満州国警察官だったと月刊朝鮮に暴露されている。火の粉はまず提唱者らにかかり始めている。

中国は日本に協力した人の財産をほとんど没収したという。ヨーロッパでもナチに協力した人の財産を没収している。しかし韓国では親日反民族的行為者は処罰されず財産も没収されていない。このためウリ党はこうした人たちの財産を没収する特別法の制定も検討しているという。

こうした流れが現在、日本と仲良くしている行為をも批判することにつながらないか。それを心配したのが、8月末の自民党安倍幹事長、公明党冬柴幹事長の来韓目的のひとつだった。でも「そんな心配はない」と言われて安心したという。私のまわりの人たちも口をそろえて過去の行為に限定されているので大丈夫だというのが・・・。

もうひとつは国家保安法だ。与党ウリ党、野党民主労働党、野党民主党は廃止を主張、これに対して野党ハンナラ党は存続ないしは一部改正を主張して、保守革新の一大対決、国論を2分する議論となっている。

国家保安法は大韓民国成立直後の1948年末に成立、その後何度も改正されて強化された。北朝鮮のスパイを摘発するのが目的だが、軍事政権下で政権に楯突く民主化運動の弾圧に使われてきた。北を称えたり、そのような文書を持っていたり、反国家活動の存在を知ったのに当局に届けなかったりすれば罰せられる。適用基準があいまいで、革新系議員の多数が検挙された過去を持つ。在日韓国人もずいぶんこれで痛みつけられてきた。北の政府はことあるごとに、この法律を廃止すべきだと言ってきた。

こうした中で8月24日、国の機関である国家人権委員会は、国家保安法は廃止すべきだと、法務部長官と国会議長に勧告した。ウリ党などは今国会で国家保安法の廃止を目指している。

盧武鉉大統領は9月5日、MBCTVの対談で「国家保安法は韓国の恥ずかしい歴史の一部であり、独裁時代の遺物だ。遺物はさやに収めて博物館に送ったほうがいい」と発言。

しかし、この直前に憲法裁判所は、「国家保安法は合憲」の判決を出し、最高裁にあたる大法院も判決文の中で「この法律は必要だ」とする表現を盛り込んでいる。また9月9日にはソウルで「元老」（韓国では各界のもと指導者を元老という）350人が集会を開き、国家保安法の維持を訴えた。ここで姜英勲元首相は「北朝鮮の対南心理戦略に追随する市民運動家ら386世代や親北・左傾・反米勢力は、国政懸案である経済の立て直しをせずに過去究明の美名のもとに左右の対立を進めている」と批判した。

大新聞の朝鮮日報、東亜日報が盧武鉉政権と鋭く対立していることもあって、国家保安法についての新聞の世論調査結果は、人権抑圧などの問題点を改正して存続させるべきという意見が多い。中央日報の世論調査では、「一部改正して存続」が66%、「今のままで存続」16%、「完全廃止」14%だった。

9月1日から始まった今国会は、会期100日、ウリ党は100の改革法案を提出するという。朝鮮日報、東亜日報は、親日究明法で創業者がやり玉にあげられる可能性が高い。また言論規制法案は、新聞3社の市場占有率を60%以内に制限し（現在は80%近くか）、社主の持ち株を30%以内とするらしい。国会に近いヨイドのKBSはデモ隊と規制の機動隊に連日、埋め尽くされそうだ。

◇お知らせ・紹介

この欄は、会員の皆さんへ各種ニュースや1～3ヵ月先のイベントのお知らせや、その他もろもろの紹介をしていきます。会員の皆さんからの情報も待っています。

1) KOREAN NEW WAVE Ccotbyel & SANTA/ 名古屋

韓国胡弓“ヘグム”奏者のコッピョルと韓国伝統音楽のSANTAのコラボレーション

場 所 : 名古屋市千種文化小劇場

日 付 : 11月26日(金)

開 場 : 18:00 / 開演 19:00

チケット : ¥3,000 (全席自由)

問 : 名古屋市千種文化小劇場 : 052-745-6235 (<http://www.culture.city.nagoya.jp/goannai>)

SANTA (<http://www3.to/santa-mych>)

2) 第40回 留学生の夕べ

留学生の母国の文化を紹介し、市民の異文化理解を深め留学生との交流を図る。

日 時： 12月4日(土) 場 所： 名古屋国際センター
問合せ先： 名古屋国際センター交流協力課 T E L： 052-581-5689

編集後記

(2004/9/29)

会報 No. 27 をお届けします。

今年の夏はアテネオリンピックもありましたが、台風と地震が多くやって来て、いろいろな意味で刺激が多かったように思います。この会報の編集者とし、私の名前が印刷されていますが、私より影で会報制作を支えて下さる人々の方が大変な思いをしていると感じています。特に今回の光州から送られて来たハングルの感想文は力作が多く、また自然な文体で書かれており、韓国語に精通している大人が数人でタッグを組んで翻訳にあたりました。本当にいつも頭が下がる思いです。感想文を優先したため、今回は会員の広場はお休みさせていただきました。

また、会のホームページの方にも、毎月の事務局会議の様子やその他の重要な情報や案内がリアルタイムでアップされています。是非訪れてください。そして交流館の方へも書込みをお願いします。アドレスはこの会報の表紙に載っています。

池貴己子さんのイラストは、NHK ラジオ講座 1994 年度から、韓国の古典を題材としたものです。

編集：早川 潤 〒472-0002 知立市来迎寺町木ノ根田 10-4
TEL/FAX 0566-82-5466 MAIL junhykw@pop12.odn.ne.jp